

---

# 運試しスイッチ

背瀬川 有次

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

運試しスイッチ

### 【Nコード】

N4275N

### 【作者名】

背瀬川 有次

### 【あらすじ】

目覚めた場所は、コンクリートに囲まれた部屋。目の前には、首にロープを掛けられた友人。ここから、“ゲーム”が始まる。

**最悪“ゲーム”（前書き）**

気軽に読んで下さい。

## 最悪“ゲーム”

「どこだ…ここは…」  
記憶がない…

コンクリートの壁に囲まれた部屋で『永田 信次』は、目を覚ました。

目の前には、謎のスイッチが6個と、モニター。  
その上には、ガラス。

後ろには、扉。

永田は思い出した、確か…友人と一緒に、飲んでみんなで帰ってたら、いきなり首を、締められて…

「ハア…」ため息をついた永田は、ガラス越しの光景を見た瞬間、血の気が引いた。

「なんだ…これ…」  
さっきまで、一緒にいた友人が首にロープを掛けられ、手足を縛られている。

「おはよう、永田信次君」  
モニター越しに、仮面をかぶった男がこちらに向かって、話し掛けてきた。

永田は、声も出せないでいた。「君には、今から“ゲーム”をしてもらおう」

「ゲーム？」

「ルールは、いたって簡単そのスイッチを、押せばいいんだ」

「これか？」

「そうだ。」

永田の脳裏に、ある疑問がよぎった。

「押すとどうなる？」

「目の前にいる、君の友達が首を吊って死ぬだけだ」  
男が、冷静な口調で言った。

「ふざけんな！…どういうことだ！！」

「言っただろ、“ゲーム”だと」

「は？」

「でわ、頑張りたまえ」

モニターの映像が、消えた瞬間 ジリリリリリリ！！

サイレンのような、音が鳴り響いた。

永田が、気づくと友人は全員起きていた。

「おい…なんだこれ…？」

一番右端の、浦上がいった。

浦上は、よく話し合う友人で、本名は『浦上 鳴』『ヤンキー風の外

見で、自称モテ男だ。

昔からの友人で、一緒にいた時間が長い。

なので、仲がよく二人で遊ぶ事も多い。

「首にロープが、掛かってる！？」

「おい、あそこ！永田が居るぞ！」

言ったのは、右から三人目の『安原 典』だ、正直苦手だ。

髪はいつもボサボサで、目付きも悪い。

生格も短気で、ワガママだ。

しかし永田には、何もしてこないの、気にしていない。

「どういうこと！永田！」

右から六人目の、アイツは、『谷川 真希』顔は、可愛いが性格が悪い。

俺は、べつに気にしてないが…

唯一何も発していない、右から4人目の女は、『小島 由子』地味な

見た目に、喋る事が少ない。

話した事もない。「なんだよ！これ…知ってんだろ！永田あ！」

右から5人目、乱暴な口調の奴は、『神田 信』だ、アイツは、俺をパシリにするヤンキーだ浦上と違い、うざい奴だ。

そして、右から二人目の眼鏡は『志水 考』ガリ勉強郎だ。

いつも上から目線の、ナルシストだ。

**最悪“ゲーム”（後書き）**

楽しめましたか？

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4275n/>

---

運試しスイッチ

2010年10月10日22時19分発行